



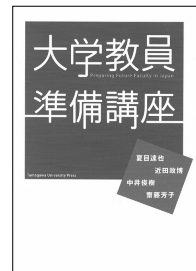
日本高等教育学会第 14 回大会 プログラム

2011年5月28日(土)～29日(日)
名城大学(天白キャンパス)

The 14th Annual Meeting

JAHER
Japanese Association of Higher Education Research
日本高等教育学会

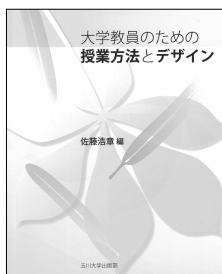
大学教員準備講座



夏目、近田他著
A5判並製・224頁
定価2520円

多様化した学生の教育や高度な研究の推進、地域社会への貢献など、大学教員には専門性の高い職務をなんなく遂行することが期待されている。本書には、そうした職務について前もって知っておくべき知識や技能、大学側から求められることが体系的にまとめられている。大学教員を志す大学院生、研究員、非常勤講師や若手教員へ。

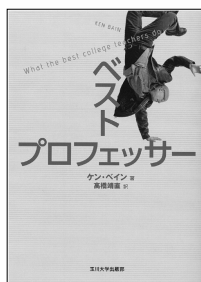
大学教員のための 授業方法とデザイン



佐藤浩章編
AB判並製・160頁
定価2415円

教育は教員の教授活動と学生の学習活動から構成されている。この両者の成果が相高まって、初めてよい教育が生まれる。本書では、大学教員に求められる知識と技術を提供。授業で学習内容をどのように構成・配置するか、どのように教えるのかを説明。すぐに使える資料や授業実践例を掲載。大学教員向け研修の教科書として最適。

ベストプロフェッサー



ケン・ペイン著
高橋靖直訳
A5判並製・216頁
定価3150円

優れた大学教師は何を考へ、どのような教え方をしているのか。教師にとって大切なことは何なのか。ハーバード大学マイケル・サンデル教授の「ソクラテス式問答法」による「正義」の講義など、ベストプロフェッサー63人の授業の進め方と学生への接し方を分析、学生のやる気を起こし効果的な学習環境を創造する方法を紹介。

リーディングス 日本の高等教育「全8巻」

「企画編集」 橋本鉦市・阿曾沼明裕

A5判上製 平均376頁 定価 各4725円

高等教育の問題群を究明する掲載論文とその解題、その他の重要文献の紹介・解説により、テーマの全貌を明らかにする。高等教育研究の入門用のほか、大学の授業・ゼミ用の基本文献集として使える。

- ① 大学への進学
選抜と接続
〔編集〕 中村高康
- ② 大学の学び
教育内容と方法
〔編集〕 杉谷祐美子
- ③ 大学生
キャンパスの生態史
〔編集〕 橋本鉦市
- ④ 大学から社会へ
人材育成と知の還元
〔編集〕 小方直幸
- ⑤ 大学と学問
知の共同体の変貌
〔編集〕 阿曾沼明裕
- ⑥ 大学と国家
制度と政策
〔編集〕 村澤昌崇
- ⑦ 大学のマネジメント
市場と組織
〔編集〕 米澤彰純
- ⑧ 大学とマネー
経済と財政
〔編集〕 島一則

ごあいさつ

冒頭にて、本年の 3 月 11 日以降から続く東日本大震災の甚大なる惨状を悼み、各地域の市町村の力強い復興と関係方々の普通の生活への一日も早い復帰を切に祈ります。

本学会員のなかにも今回の震災で被災にあわれた方々がいらっしゃいます。会員の皆様の被災の全容を知ることはできませんが、不安のなかではあっても、第 14 回大会は予定通り名城大学天白キャンパスで開催されることとなります。そのことの意味と有難さを改めてここに噛みしめたいと思います。

さて、手にとられた大会プログラムに目を通していただくとわかりますように、今回も自由研究発表への応募が多くの皆様からありました。その数は個人と共同の発表を合わせた 78 件になりました。発表テーマも多彩で多様です。これに加えて、課題研究発表が 3 件、そして公開シンポジウム 1 件が発表プログラム全体の構成です。今回は従来よりは少し多めの発表辞退が起きるかも知れませんが、私ども大会準備委員会はそれには寛容に徹し、何よりも、発表が円滑に進行し稔りある質問や意見交換によって各会場が知的交流の場となることを願います。

学会刊行物である「高等教育研究」を毎年手にする度に、本学会の原点となる設立趣旨の確認をすることができます。大きな変動の時代を受容れ、学問領域の違いを認め合い、理論と方法論を研究の視野に収め、研究成果の普及そして実践と政策の課題解決に寄与することが、そこには明確に謳われています。1997 年 7 月 19 日の発起人一同のこの声明は会員にはいまだ記憶に新しいものであります。

本学会の原点に立脚したとき、私自身はここ十年余、高等教育経営の新たな学問世界を切り拓くことに心血を注いできました。研究と開発と実践をつなぐ経験と苦悩を重ねてきて、今にしてやっと大学経営の現実に学問世界の寄与の在り方が見えつつあるところです。近未来目線の延長線上には、地域・国・グローバルという複合する次元のなかで生き抜くことを強みとする新大学群が存在します。このような大学群が存在するには、それをナビする政府の政策構想力が必要です。それにも増して必要なことは、新大学群を経営する内部ガバナンスの仕組みとそのなかで役割行動ができる経営リーダー層、そして新たな専門職集団としての教員層や職員層の厚みです。

第 14 回大会がこうした新たな高等教育像を交換し合う知的刺激と議論に満ちた機会になることを願っております。

日本高等教育学会 第 14 回大会準備委員会
委員長 池田 輝政

大会日程

5月27日 (金)

18:00 ~ 19:00 理事会 (N 2 3 7 会議室)

5月28日 (土)

9:15 ~ 受付 (1階入口)

10:00 ~ 12:00 自由研究発表 I

12:00 ~ 13:00 課題研究打ち合わせ (N 2 3 6 会議室)

13:00 ~ 15:00 自由研究発表 II

15:10 ~ 17:40 課題研究

課題研究 I

「高等教育教員とキャリア教育・職業教育 —職業教育の質保証(2)—」
(N 3 2 1 講義室)

課題研究 II

「学生調査の可能性と限界

—学生調査から何がわかり、何がわからないのか、そして実践への課題は？

—」

(N 3 2 2 講義室)

課題研究 II

「教養・共通教育を通してみる学士課程教育の構築

—高等教育の質保証で何を、誰が、如何に保証するのか(その1)—」

(N 3 2 3 講義室)

18:00 ~ 20:00 懇親会 (名城食堂)

5月29日 (日)

9:00~ 受付 (1階入口)

9:30 ~ 12:00 自由研究発表 III

12:00 ~ 13:00 公開シンポジウム打ち合わせ (N 2 3 4 会議室)

13:00 ~ 13:30 総会 (名城ホール)

13:40 ~ 16:20 公開シンポジウム (名城ホール)

「大学経営の苦悩—対立から協働へ—」

大会参加のご案内

参加費

大会参加費：5,000 円

懇親会費： 5,000 円

*会員でない方も臨時会員として参加できます。参加費は正会員と同額です。

**シンポジウムは無料で一般に公開します。

今大会では、大会参加費、懇親会費、および大会2日目の昼食（弁当）代につき、事前振込みをお願いしております。昼食代以外は、大会当日も受け付けますが、できるだけ事前振込みをご利用ください。事前振込みの場合は、大会参加費と懇親会費をそれぞれ500円割引とさせていただきます。大会2日目の昼食（弁当）代は1,000円で、事前振込みをされる方からのみ注文を受け付けます。大会2日目は日曜日につき、学内食堂が営業しておらず、周辺の飲食店も限られておりますので、なるべく事前振込みをご利用の上、昼食（弁当）を注文していただきますようお願いいたします。

大会案内同封または郵便局備付けの郵便振替用紙（口座番号00820-8-190476、加入者名「日本高等教育学会大会準備委員会」）にて、所定の事項をご記入の上、5月11日（水）までにお振込みください。それ以降は、当日受付にてお支払いください。振替用紙は、お申込みお一人につき1枚をご使用ください。振込み手数料は、各自でご負担ください。

学会年会費

大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。

入場

会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。

呼び出し

会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。

欠席の場合

発表者が欠席する場合は、わかり次第、できるだけ早く大会準備委員会に E-mail にてお知らせください（準備委員会 E-mail:jaher2011@emspd.meijo-u.ac.jp）。

資料のコピー

大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。

昼食

28日（土）のみ学内食堂が営業しています。29日（日）は事前申込みによる弁当、学外の飲食店、コンビニエンスストアなどをご利用下さい。

会員控室

大会期間中は共通講義棟北2階N 2 3 6 会議室が大会本部、4階N 4 1 1 講義室が会員控室になります。会員控室にはお茶を用意しています。書籍等の展示・販売コーナーは、4階N 4 1 2 講義室です。

クローク

ありません。貴重品は各自管理してください。

懇親会

28日（土）18:00～20:00、大会会場内の名城食堂にて懇親会を開催します。

喫煙場所

建物内は全面禁煙になっています。喫煙は屋外の決められた場所で行います。

発表者へのお願い

●発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1 人	15 分	5 分
2 人	30 分	10 分
3 人以上	40 分	10 分

※全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。

- 【1 鈴】発表終了5分前
- 【2 鈴】発表終了時
- 【3 鈴】質疑応答終了時

●発表用機械器具

大会会場には、DOS-V対応のプロジェクターならびに16ピンコネクター・ケーブル、Windows XP相当のパソコンを用意します。パソコンを利用される場合は、WindowsOffice2003形式(.ppt .doc)及びPDF形式(.pdf)であれば、ほぼ確実に対応可能です。接続メディアは、電気の供給があまり要らないUSBメモリ等をご用意ください。それ以外の機器をご利用希望の場合には、ご持参いただいた上で発表部会開始前に動作確認をお願いいたします。なお、必ずしも対応できない場合もあることを予めご了承ください。Macintoshの場合は、必要な機材をご持参ください。

司会者へのお願い

●発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

●総括討論

各セッションの最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願い申し上げます。

会場へのアクセス

会場：名城大学天白キャンパス（名古屋市天白区塩釜口 1-501）

地下鉄「鶴舞線」塩釜口駅 1 番出口を右方向へ出て徒歩 8 分

地下鉄「鶴舞線」八事駅 1 番出口からタクシー利用の場合は名城大学本部棟前まで 5 分弱

*会場周辺には若干の有料駐車場がありますが、限られておりますので、公共交通機関をご利用下さい。

**下記の大会ホームページからも、会場までのアクセスをご覧いただけます。

<http://emspd.meijo-u.ac.jp/jaher2011>

<JR・名鉄・近鉄>名古屋駅から塩釜口駅までは

地下鉄「東山線」藤が丘行きに乗車し、伏見駅で「鶴舞線」赤池・豊田市行きに乗り換え塩釜口駅下車。

または、JR「中央本線」下りに乗車し、鶴舞駅で「鶴舞線」赤池・豊田市行きに乗り換え塩釜口駅下車。

(所要時間約 35 分)

<航空機>中部国際空港（セントレア）から塩釜口駅までは

名鉄ミュースカイ・特急などに乗車し、名鉄金山駅または名古屋駅で下車。名古屋駅からは上記参照。

金山駅からは JR「中央本線」下りに乗車し、鶴舞駅で下車。鶴舞駅からは上記参照。

または、金山駅から地下鉄「名城線」左回りに乗車し、八事駅で下車。八事駅からは上記参照。

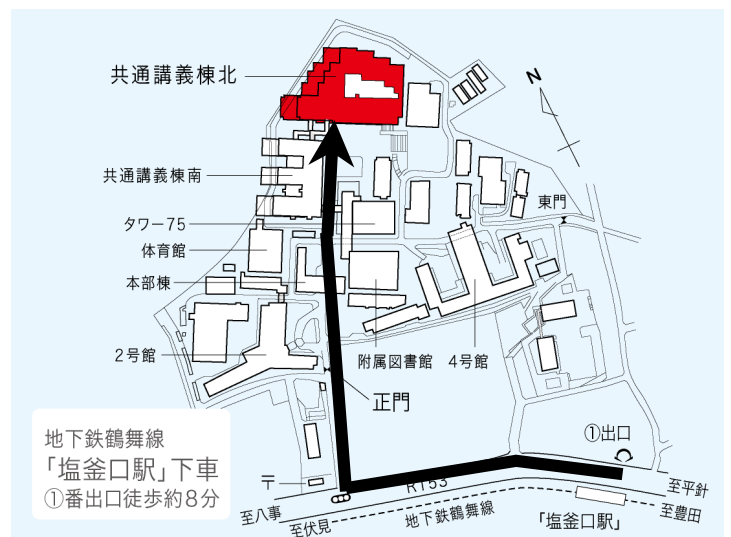
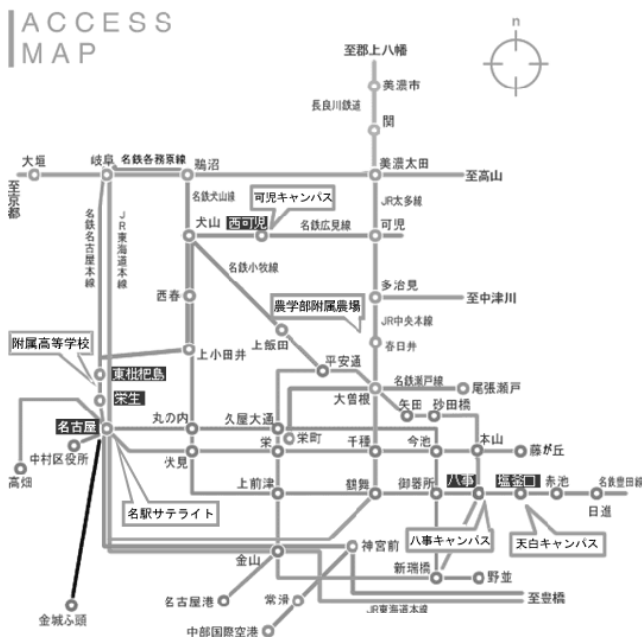
(所要時間約 1 時間)

<航空機>名古屋空港（県営）から塩釜口駅までは

名古屋駅前行き直行バスに乗車し、名古屋栄または名古屋駅で下車。名古屋駅からは上記参照。

名古屋栄からは地下鉄「東山線」高畑行きに乗車し、伏見駅で下車。伏見駅からは上記参照。

(所要時間約 70 分)

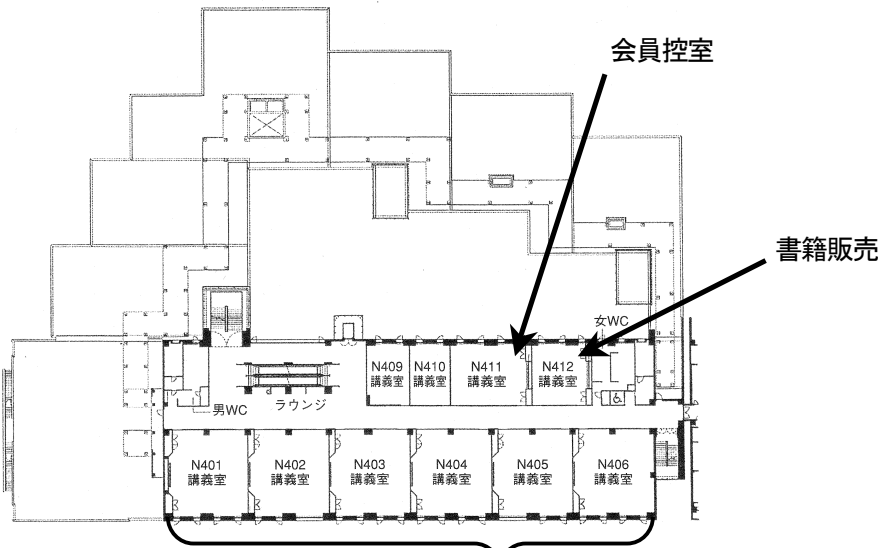
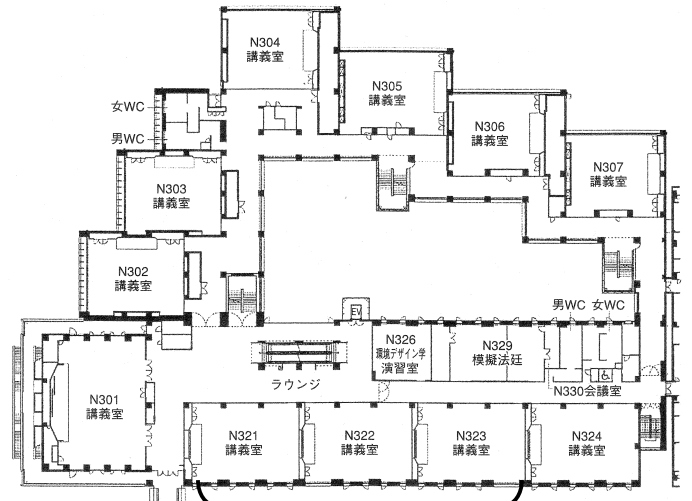
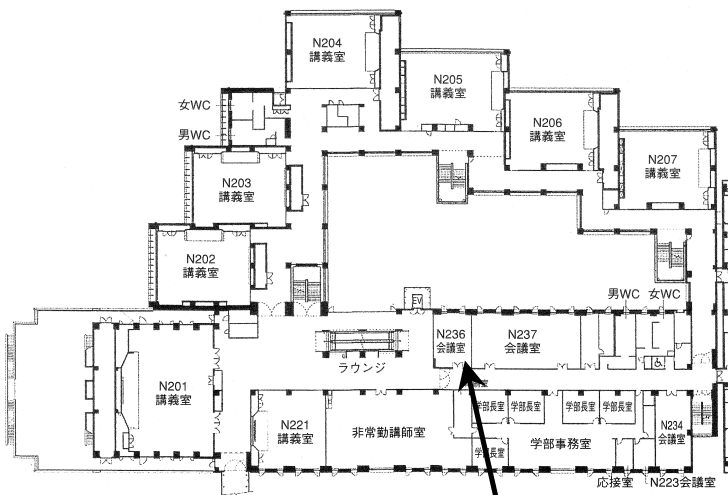
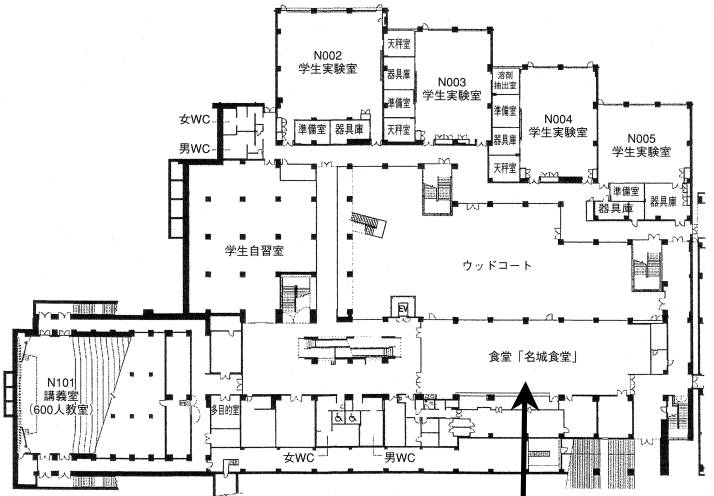
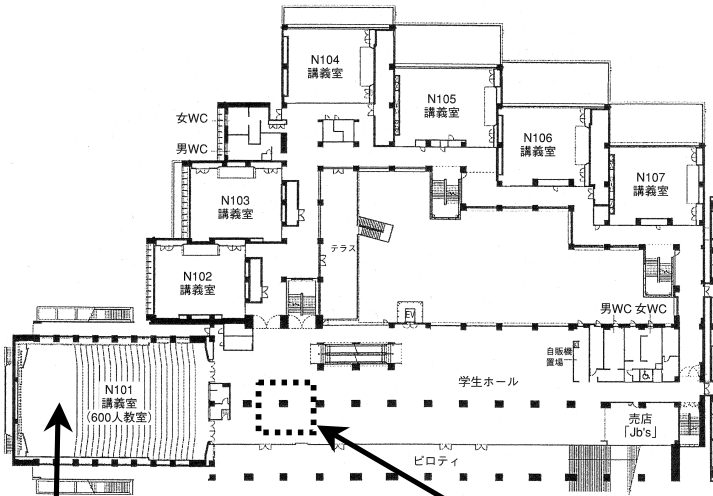


宿泊先のご案内

宿泊は各自でお申し込み下さい。ご参考までに主要駅近くのホテルをご紹介します。
(料金は、曜日・季節によって変わる場合があります)

最寄駅	ホテル名	連絡先	アクセス	料金
八事	サーウィンストンホテル	052-861-7901 ygw.jp	地下鉄鶴舞線 八事駅1分	S11,500 円～
池下	ホテルルブラ王山 (公立学校共済組合名古屋宿泊所)	052-762-3105 www.rubura.org	地下鉄東山線 池下駅3分	S8,085 円～
千種	メルパルク名古屋	052-937-3535 www.mielfront.com	地下鉄東山線 千種駅2分	S7,560 円～
伏見 栄	ホテル名古屋ガーデンパレス	052-957-1022 www.hotelgp-nagoya.com	地下鉄東山線 栄駅5分	S6,150 円～
	名古屋観光ホテル	052-231-7711 www.nagoyakankohotel.co.jp	地下鉄東山線 伏見駅5分	S15,015 円～
	名古屋錦ワシントンホテルプラザ	052-962-7111 nishiki.washington.jp	地下鉄東山線 栄駅5分	S6,650 円～
	名古屋栄ワシントンホテルプラザ	052-243-0410 sakae.washington.jp	地下鉄東山線 栄駅7分	S6,150 円～
	名古屋国際ホテル	052-961-3111 nagoyakokusai.com	地下鉄東山線 栄駅2分	S7,550 円～
	R&B ホテル名古屋錦	052-973-1717 nishiki.randb.jp	地下鉄東山線 栄駅5分	S5,800 円～
	名古屋栄東急イン	052-251-0109 www.sakaetokyuin.com/	地下鉄東山線 栄駅8分	S8,950 円～
名古屋	名古屋マリオットアソシアホテル	052-584-1111 www.associa.com/nma	JR名古屋駅1 分	S20,500 円～
	名鉄グランドホテル	052-582-2211 www.meitetsu-gh.co.jp	JR名古屋駅1 分	S11,500 円～
	ロイヤルパークイン名古屋	052-581-4411 www.royalpark-nagoya.com	JR名古屋駅3 分	S5,500 円～
	キャッスルプラザ	052-582-2121 www.castle.co.jp/plaza	JR名古屋駅7 分	S10,500 円～

大会会場案内図



大会会場一覧

5月28日 (土)

9:15～	
共通講義棟北(N)入口	受付
10:00～12:00	
自由研究発表Ⅰ	
N401 講義室	I-1 部会 学生支援
N402 講義室	I-2 部会 IR
N403 講義室	I-3 部会 国際交流
N404 講義室	I-4 部会 大学進学・高大接続
N405 講義室	I-5 部会 FD・SD
N406 講義室	I-6 部会 学生調査1
13:00～15:00	
自由研究発表Ⅱ	
N401 講義室	II-1 部会 大学院教育1
N402 講義室	II-2 部会 大学経営1
N403 講義室	II-3 部会 大学教員
N404 講義室	II-4 部会 留学生
N405 講義室	II-5 部会 歴史研究
N406 講義室	II-6 部会 学生調査2
15:10～17:40	
課題研究	
N321 講義室	課題研究Ⅰ 高等教育教員とキャリア教育・職業教育
N322 講義室	課題研究Ⅱ 学生調査の可能性と限界
N323 講義室	課題研究Ⅲ 教養・共通教育を通してみる学士課程教育の構築
18:00～20:00	
懇親会	
名城食堂	

5月29日 (日)

9:00～	
共通講義棟北(N)入口	受付
9:30～12:00	
自由研究発表Ⅲ	
N401 講義室	III-1 部会 財務・財政
N402 講義室	III-2 部会 質保証
N403 講義室	III-3 部会 大学経営2
N404 講義室	III-4 部会 大学評価
N405 講義室	III-5 部会 教育内容・方法と学習成果
N406 講義室	III-6 部会 大学院教育2
13:00～13:30	
総会	
名城ホール	
13:40～16:20	
公開シンポジウム	
名城ホール	大学経営の苦悩 —対立から協働へ—

学生支援

司会：近田 政博（名古屋大学） 森 利枝（大学評価・学位授与機構）

10:00-10:20 学生を元気にするキャリアカウンセリング回答のヒント研究

○野口 和枝（早稲田大学）

10:20-11:00 学習成果ベースの大学教育におけるピア・サポートの活用と意義について

○小貫 有紀子（九州大学） ○田中 岳（九州大学）

11:00-11:20 大学生の就職活動におけるパーソナル・ネットワークの利用とその帰結

○石田 賢示（東北大学大学院）

11:20-11:40 大学院生への経済的支援のメカニズム

—米国研究大学のカレッジ・スクールの経営の観点から—

○阿曾沼 明裕（名古屋大学）

11:40-12:00 総括討論

IR

司会：沖 清豪（早稲田大学） 中井 俊樹（名古屋大学）

10:00-10:20 中国におけるIRの展開と特質 —アメリカ・日本と比較の視点—

○劉 文君（東京大学）

10:20-10:40 日本の高等教育機関におけるIR —第一回日米合同IR調査の結果より—

○江原 昭博（同志社大学）

10:40-11:20 IRによる意思決定支援に関する米国の事例と日本への適応可能性

○小湊 卓夫（九州大学） ○畠田 敏行（茨城大学） 井田 正明（大学評価・学位授与機構）
林 隆之（大学評価・学位授与機構） *浅野 茂（非会員：神戸大学） 大川 一毅（岩手大学）
奥居 正樹（広島大学） 齋藤 聖子（大学評価・学位授与機構）
佐藤 仁（福岡大学） 西出 順郎（岩手県立大学） 野田 文香（大学評価・学位授与機構）
山下 泰弘（山形大学）

11:20-11:40 日本におけるインスティテューショナル・リサーチの現状と課題

—第1期中期目標・計画期間を終えて：名古屋大学の事例を中心に—

○青山 佳代（名古屋大学）

11:40-12:00 総括討論

国際交流

司会：大場 淳（広島大学） 加藤 かおり（新潟大学）

10:00-10:20 日本人の海外留学と日本経済 ―日本人は内向きになったか―

○船守 美穂（東京大学）

10:20-10:40 WTO 体制における高等教育改革 ―日本と台湾との比較―

○楊 武勲（暨南国際大学）

10:40-11:00 東アジア高等教育のための共通フレームワーク構築の可能性とその課題
―アセアン+3の13カ国比較研究報告書からの一考察―

○堀田 泰司（広島大学）

11:00-11:20 ヨーロッパにおける大学教授職の流動性

○吉永 契一郎（東京農工大学）

11:20-11:40 米国高等教育へのポローニャプロセスのインパクト

○上別府 隆男（東京女学館大学）

11:40-12:00 総括討論

大学進学・高大接続

司会：荒井 克弘（大学入試センター） 大膳 司（広島大学）

10:00-10:20 私立大学の経営と付属校の内部進学率

○上田 大作（創価大学）

10:20-10:40 大学進学の経済的便益の地域差と進学行動

○朴澤 泰男（一橋大学）

10:40-11:00 成績閲覧システムの開発と高大接続に関する傾向分析

○山本 以和子（京都工芸繊維大学） *内村 浩（非会員：京都工芸繊維大学）

11:00-11:20 ミクロデータによる大学中退行動の分析

○田尻 慎太郎（嘉悦大学）

11:20-12:00 総括討論

FD・SD

司会：稲永 由紀（筑波大学） 夏目達也（名古屋大学）

- 10:00-10:20 日本における高等教育開発論に関する文献レビュー
○佐藤 浩章（愛媛大学）
- 10:20-10:40 実践的 FD プログラムによる新任教員研修の成果と課題
○井上 史子（立命館大学） *河合 昭依（非会員：立命館大学）
- 10:40-11:00 FD とラーニングコモンズとの連動 —学習・教授法と学習環境に関する研究—
○井下 理（慶應義塾大学）
- 11:00-11:20 国立大学職員の能力開発 —SD から職能開発へ—
○片平 剛（横浜国立大学）
- 11:20-12:00 総括討論

学生調査 1

司会：加野 芳正（香川大学） 山田 礼子（同志社大学）

- 10:00-10:20 経営学分野における学習スタイルの大学間比較
○藤埴 智一（宮崎大学）
- 10:20-10:40 学生支援の現代的展開 —日本学生支援機構「平成 22 年度学生支援取組状況調査」より—
○川島 啓二（国立教育政策研究所） 沖 清豪（早稲田大学） 小貫 有紀子（九州大学）
串本 剛（東北大学） 小島 佐恵子（北里大学） 田中 岳（九州大学）
秦 敬治（愛媛大学） 望月 由起（お茶の水女子大学）
- 10:40-11:20 東大生の学生生活の時系列分析
○小林 雅之（東京大学） ○王 帥（東京大学大学院）
- 11:20-12:00 総括討論

大学院教育 1

司会：福留 東土（広島大学） 山本 眞一（広島大学）

- 13:00-13:20 大学院における研究室教育の効用について考える
—金沢大・北陸先端大による研究プロジェクト報告を中心に—
○林 透（北陸先端科学技術大学院大学） *山代 隆章（非会員：金沢大学）
- 13:20-13:40 大学院政策の変遷と大学院環境教育プログラム
—サステナビリティ学教育プログラムを中心に—
○内山 弘美（茨城大学）
- 13:40-14:00 大学院教育の実質化と博士人材 —工学を中心に—
○塚原 修一（国立教育政策研究所）
- 14:00-15:00 総括討論

大学経営 1

司会：加藤 毅（筑波大学） 山本 清（東京大学）

- 13:00-13:20 大学経営研究の変容に関するエスノグラフィー —研究者の意味世界との接触を通して—
○平塚 力（京都文教大学）
- 13:20-13:40 大学経営に導入された執行役員制度の実証的研究 —4大学の導入事例から—
○高橋 知裕（早稲田大学）
- 13:40-14:00 大学図書館における教育研究支援の高度化を目的とした戦略的アウトソーシング
○梅澤 貴典（中央大学）
- 14:00-14:20 大学経営におけるリスク管理手法の提案
○大山 篤之（ニッセイ基礎研究所） 小原 一仁（玉川大学）
- 14:20-14:40 BSC-DEA 統合モデルによる大学経営の改善
○山崎 その（京都外国語大学）
- 14:40-15:00 総括討論

大学教員

司会：阿曾沼 明裕（名古屋大学） 岩田 弘三（武蔵野大学）

13:00-13:20 現代の大学教員観 —高校教員および有識者調査分析を手掛かりに—

有本 章（くらしき作陽大学） ○木本 尚美（県立広島大学）

13:20-13:40 わが国における大学教員の給与制度 —私立大学を中心に—

○天野 智水（琉球大学）

13:40-14:30 有識者から見た大学教授職の研究(1) —大学教授職に関する意識調査の分析—

○有本 章（くらしき作陽大学） ○大膳 司（広島大学） ○葛城 浩一（香川大学）
○大橋 隆広（比治山大学） 木本 尚美（県立広島大学） 長谷川 祐介（大分大学）

14:30-15:00 総括討論

留学生

司会：大塚 豊（広島大学） 大森 不二雄（首都大学東京）

13:00-13:20 インターンシップと短期交換留学生の意識変容 —企業体験者講話の導入—

○恒松 直美（広島大学）

13:20-13:40 日本とEUにおける短期留学生交流の発展と関連政策の比較

○佐藤 由利子（東京工業大学）

13:40-14:00 留学生受入れ政策と派遣政策のマッチングに関する考察 —日台間の留学生政策を事例に—

○呉 書雅（広島大学大学院）

14:00-14:20 留学生の受け入れに関する大学教員向けガイドの開発とその有効性

○近田 政博（名古屋大学）

14:20-15:00 総括討論

歴史研究

司会：伊藤 彰浩（名古屋大学） 吉永 契一郎（東京農工大学）

13:00-13:20 戦前期私立高等教育機関における教員給与の基礎的研究 —慶應義塾の事例から—
○戸村 理（東京大学大学院）

13:20-13:40 日本における J. H. ニューマンの教育論の受容にみる大学観の変遷
○宇野 慶（玉川大学）

13:40-14:00 フンボルト大学理念の形成
○金子 勉（京都大学）

14:00-15:00 総括討論

学生調査2

司会：濱中 義隆（大学評価・学位授与機構） 吉本 圭一（九州大学）

13:00-13:20 短期大学におけるエンゲージメント —短大生の充実感と效能感の規定要因の探索—
○堺 完（同志社大学大学院） 木村 拓也（長崎大学） 西郡 大（佐賀大学）
山田 礼子（同志社大学）

13:20-14:00 短期大学のインパクト —JJCSS2009 より—
○相原 総一郎（大阪薫英女子短期大学） ○森 利枝（大学評価・学位授与機構）

14:00-14:20 「一年生調査2009年」による北海道大学を中心とした比較分析
○山田 邦雅（北海道大学） 細川 敏幸（北海道大学） *宮本 淳（非会員：北海道大学）
*竹山 幸作（非会員：北海道大学） 西森 敏之（北海道大学） *安藤 厚（非会員：北海道大学）

14:20-14:40 アメリカにおける大学生調査の調査項目の比較分析
○山崎 慎一（桜美林大学）

14:40-15:00 総括討論

Ⅲ-1 部会 N401 講義室

財務・財政

司会：丸山 文裕（国立大学財務・経営センター） 両角 亜希子（東京大学）

9:30-9:50 1980年代から90年代の米国高等教育に見る寄付拡大とその要因

○福井 文威（東京大学大学院）

9:50-10:10 アメリカの大学における基本財産とその用途制限 —プリンストン大学の裁判事例—

○長野 公則（東京大学大学院）

10:10-10:30 米国大学の債券発行と CONNIE LEE

○川崎 成一（東京大学大学院）

10:30-10:50 イタリアにおける高等教育機関への予算配分 —パフォーマンス配分導入の展開—

○城多 努（広島市立大学）

10:50-11:10 学内規程の分析による国立大学法人基金の現状と課題

○小暮 克哉（東京理科大学）

11:10-11:30 教育コスト可視化による授業料政策展開の可能性 —地方国立大学のコスト試算結果から—

○南 学（神奈川大学）

11:30-12:00 総括討論

Ⅲ-2 部会 N402 講義室

質保証

司会：川嶋 太津夫（神戸大学） 村澤 昌崇（広島大学）

9:30-9:50 「内部質保証システム」構築に向けた評価報告書の記述内容分析

○高森 智嗣（九州大学）

9:50-10:40 高等教育における機関レベルの教育質保証システム —米・英・豪・欧州の動向から—

○杉本 和弘（東北大学）

○大佐古 紀雄（育英短期大学）

○田中 正弘（弘前大学）

○福留 東土（広島大学）

高森 智嗣（九州大学）

鳥居 朋子（立命館大学）

林 隆之（大学評価・学位授与機）

10:40-11:00 日中韓における高等教育の国際化に対する質保証の課題と現状

○林 隆之（大学評価・学位授与機構）

金 性希（大学評価・学位授与機構）

11:00-11:20 フランスにおける高等教育の質保証：政府・市場・大学間の関係の再構築

○大場 淳（広島大学）

11:20-12:00 総括討論

大学経営2

司会：小林 雅之（東京大学） 塚原 修一（国立教育政策研究所）

9:30-9:50 地方国立大学における「卒業生サービス」の可能性と課題

○大川 一毅（岩手大学） 西出 順郎（岩手県立大学） 山下 泰弘（山形大学）

9:50-10:10 新規事業プロセスモデルによる国立大学法人の内部組織変容過程の考察 —時限付き研究組織に焦点をあてて—

○金子 研太（九州大学大学院）

10:10-10:30 国立大学法人における施設等の老朽化と機能低下の分析方法に関する試案

○水田 健輔（東北公益文科大学） 稲葉 忠彦（神奈川県）

10:30-10:50 財務面から見た大学の経営行動 —国立大学法人の第一期の分析—

○山本 清（東京大学）

10:50-11:30 大学教育改革における大学執行部のリーダーシップの形成と発揮 —国立大学副学長を中心に—

○夏目 達也（名古屋大学） ○大塚 雄作（京都大学） 近田 政博（名古屋大学）
中井 俊樹（名古屋大学） 齋藤 芳子（名古屋大学） 大森 不二雄（首都大学東京）
中島 英博（名城大学） 吉永 契一郎（東京農工大学）

11:30-12:00 総括討論

大学評価

司会：前田 早苗（千葉大学） 山崎 博敏（広島大学）

9:30-10:10 大学評価と大学図書館における学習支援

○溝上 智恵子（筑波大学） ○呑海 沙織（筑波大学） *歳森 敦（非会員：筑波大学）

10:10-10:30 国立大学法人における「外部評価」の位置づけ

○高野 篤子（秋田大学）

10:30-10:50 COEプログラムにおける研究成果の分析

○柴山 盛生（国立情報学研究所）

10:50-11:10 台湾の国立大学における業績の資源配分への反映

○張 慧嫻（早稲田大学）

11:10-11:30 デンマークにおける専門分野別教育プログラム認定・評価について

○堀井 祐介（金沢大学） 早田 幸政（大阪大学） 大佐古 紀雄（育英短期大学）

11:30-12:00 総括討論

教育内容・方法と学習成果

司会：井下 理（慶應義塾大学） 杉谷 祐美子（青山学院大学）

9:30-9:50 大学教科書における知識とその変容に関する実証研究
—差異と変化に影響を及ぼす要因の試験的分析—

○原田 健太郎（広島大学）

9:50-10:10 高等教育区分としての大学／「非大学」の妥当性に関する研究
—工業分野のカリキュラムに着目して—

○新谷 康浩（横浜国立大学）

10:10-10:30 ビジネス・スクールにおけるケース・メソッドに関する考察

○二宮 祐（一橋大学）

10:30-10:50 ポローニャ・プロセスにおける目標達成の研究

○廣内 大輔（広島大学大学院）

10:50-11:10 学習成果アセスメントにおけるグローバル化の可能性について
—学部長ヒアリング調査からみえた AHELO の限界と今後の課題—

齋藤 聖子（大学評価・学位授与機構）

○野田 文香（大学評価・学位授与機構）

11:10-12:00 総括討論

大学院教育2

司会：橋本 鈺市（東京大学） 吉田 文（早稲田大学）

**9:30-9:50 IT人材育成の専門職大学院と大学院修士課程の比較
—能力養成に関する教員の意識の違いから—**

○石原 朗子（総合研究大学院大学）

**9:50-10:10 専門職大学院の「理論と実践の架橋」の具現化としての実務経験
—教員養成系専門職大学院における実習の意義と課題—**

○出口 英樹（日本教育大学院大学）

10:10-10:30 教科の教授資質と教職大学院

○川越 明日香（広島大学大学院） 橋本 健夫（長崎大学）

10:30-10:50 政策系大学院の理念と教育課程 —教員組織にみる日本の特質—

○長島 弥史郎（日本開発構想研究所）

10:50-11:10 わが国の公共政策系大学院の現状と課題 —「専門職型」と「在来型」との比較考察—

○西出 順郎（岩手県立大学） 西出 優子（東北大学大学院）

11:10-11:30 中国の大学院における「専門職学位」課程の卒業者の社会的評価 —MBAを中心に—

○黄 梅英（尚綱学院大学）

11:30-12:00 総括討論

課題研究 I 5月28日(土) 15:10-17:40

N321講義室

高等教育教員とキャリア教育・職業教育 —職業教育の質保証(2)—

司 会 藤村正司(広島大学) 稲永由紀(筑波大学)

報 告 1. アカデミック・プロフェッション研究の半世紀と短大・専門学校教員への適用

長谷川祐介(大分大学)

2. 教員と組織が担う学術性・職業専門性・教育資質 吉本圭一(九州大学)

討論者 佐藤弘毅(目白大学短期大学部) 平田信一(中国デザイン専門学校)

本課題研究は、昨年度の課題研究「職業教育の質保証」の継続であり、「教員」に焦点をあてて実証的研究成果にもとづく検討を行う。昨年度は、複線型の高等教育システムの確立の可能性を検討するために、非大学型セクターに焦点を当てて各国の高等教育改革にかかる国際比較を論じた。特に、ラーニングアウトカムを質保証の重要な基準として位置づける現代高等教育の国際動向においてクローズアップされている学位・資格枠組みの展開に注目した。

我が国においても、職業への移行や職業的社会的自立にむけてのキャリア教育・職業教育の充実をめぐる中教審等でさまざまな政策的な議論がなされており、「職業実践的な教育に特化した枠組み」に向けての検討も進められている。平成23年4月からは「当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整える」こと、といういわゆる職業指導の義務化にかかる大学設置基準等の改訂が施行される。

こうした政策的な議論は、高等教育のマス化・ユニバーサル化に不可避的なものでもあるが、逆にいえば「教育課程」と「厚生補導」との関連づけや、「大学内の組織間の有機的な連携」といった当然の課題が大学で十分達成されてこなかったことへの問題提起がなされているわけである。それは大学組織上の問題であると同時に大学教員モデルの混迷とも関係している。大学教員の研究は高等教育研究においても重要な位置を占め、他方では大学職員論もまた活発に論じられている。しかし、一方で大学教員研究が4年制大学の学術型教員モデルを中核においた教育対研究の図式に関心を集中させ、他方大学職員研究が管理運営・ガバナンスといったテーマでの能力開発を扱うなかで、上述の政策的議論となっているような新たな教育機能をめぐる連携や機能分担についての課題にまで議論が展開していない。

そのため、本課題研究では、これまでの大学教員研究の歴史的な成果を踏まえ、かつキャリア教育・職業教育という今日的課題に焦点をあて、短期大学・専門学校・高等専門学校の教員をとりあげ、これまでの大学学術型教員モデルを相対化し、ユニバーサル化段階における高等教育教員モデルを解明していきたい。特に、課題研究担当者による、教員の職務と職能、アイデンティティ、学術・職業的背景やキャリア形成・職能開発についての実態や意識、課題にかかる実証的調査研究にもとづいた比較検討を行い、短期大学と専門学校の現場関係者を交えて議論を行う。

学生調査の可能性と限界

—学生調査から何がわかり、何がわからないのか、そして実践への課題は?—

司 会 杉谷祐美子(青山学院大学) 濱中淳子(大学入試センター)

報 告 1. 学生調査のレリバンス 金子元久(国立大学財務・経営センター)

2. 学生調査に期待される役割とその限界 山田礼子(同志社大学)

3. 教育改革と実践のために情報はどう活用されるか

塚原修一(国立教育政策研究所)

討論者 吉田 文(早稲田大学)

高等教育のユニバーサル化が進行し、大学の入学者選抜が従来のような入学者の質保証の機能を保持することは難しくなっている。したがって、多様化した学力・学習目的をもった学生への大学の教育力が期待され、その結果としての高等教育の質保証を出口管理によって達成することが強く求められている。2008年中教審答申で参考指針として掲げられている学士力を高等教育の学習成果や大学教育を通じての成長の結果として捉えると、それをどう測定するのかについては日本の高等教育では、依然として模索段階である。学生の学習成果だけに限定するのではなく、教育課程、大学の環境をもふくむ概念を教育評価とすると、それは標準試験、学期末試験、レポート等を意味する直接評価と学習のプロセスや行動、生活行動等を把握する間接評価に分類される。そこで、2年目の課題研究では、間接評価としての学生調査から何がわかり、何がわからないのか。教育評価として学生の成長を把握し、教育課程の有効性を検証するには、間接評価だけで十分なのか。あるいは直接評価と組み合わせて、教育評価をする必要があるのか。間接評価としての学生調査の可能性と限界について議論することを目的とする。

日本の大学で従来実施されてきた学生調査は、研究者や研究グループの問題関心に即しながら行ってきたことから、調査目的、実施方法、データの分析方法が多種多様な状況である。そのため、大学教育の効果や学習成果を部分的、間接的に測定するに留まり、標準的な尺度にもとづいた包括的かつ体系的な学生調査として利用されてきたわけではない。しかし、高等教育が教育・研究において社会的責任を果たすためにも、大学の教育効果や学生の学習成果を正確に測定し、教育改善や教学改革につなげる、体系的かつ包括的な学生調査とそれに見合ったデータ解析手法の確立も不可欠である。日本においては、学生調査が教育効果や学習成果を測定するツール、すなわち教育評価ツールとしていかなる機能を果たすことができるのか、あるいは学生調査にはどのような課題があるのかについては理論的に十分語られてこなかったことを踏まえながら、学生調査の課題について率直に検討する。さらに、現在の高等教育の場においては、理論や研究だけでなく、学生調査は教育改善という実践にむすびつけていくことの意味が伴っている。そうした機能を果たしていくためには、何が重要で、何をしていくべきか。そうした大学運営上の議論も不可欠である。本課題研究では、実践へと結びつけていく上での課題についても議論をする。

**教養・共通教育を通してみる学士課程教育の構築
—高等教育の質保証で何を、誰が、如何に保証するのか(その1)—**

司 会・コーディネーター

濱名 篤(関西国際大学)

報 告 1. 学士課程教育の構築状況 —制度・カリキュラム・組織からの検証—

川嶋太津夫(神戸大学)

2. 学士課程教育の目標 —2010年学科長調査からの知見—

串本 剛(東北大学)

3. 豪州における学士課程教育改革の現状と日本への示唆

杉本和弘(東北大学)

討論者 小笠原正明(筑波大学)

社会や時代の要請に応じて、学士課程教育の機能は多様化しつつある。こうした多様化の進行に一定の質保証を求めたのが学士課程教育答申であり、4年間を通じた学士課程教育をひとつの教育単位としてとらえる見方を提起した。

しかし、本学会・関西国際大学の文科省受託調査における学長・学部長調査や、私学高等教育研究所の全国学科調査(第1回2009年、第2回2010年・現在集計中)の結果をみると、学士課程教育の改革は、いまだ完結した教育課程としての「学士課程教育」の理解自体が十分確立したとはいえ、専門分野ごとの意識の違いも大きい。その背景には、学士課程教育のマネジメント(責任主体)を大学、学部、教員に指定するかによる違い(誰が質保証するのか)もあれば、専門教育と共通教育・教養教育のカリキュラムをどのように組み合わせ、総合化して質保証するのか、教育の責任主体の指定の仕方とも関連して、学習の質保証を、従来通り各個別の組織単位(各授業も含めて)での実現をより確実にしようとするのか(累積型)、あるいは、総括的に(テスト等)保証するのかの考え方の違いにつながる。

今日の学士課程教育には、初年次教育やキャリア教育といった非伝統的な新たな教育プログラムが加わるなど、責任主体の不明確さを残したまま、ますますその射程を拡大し、その機能と役割が拡散しつつあるといえるかもしれない。

こうした状態を“多様化”とするならば、学士課程教育の質保証を考えるにあたり、誰が、何を、どのように質保証しているのかの現状を明らかにし、論点と課題を具体的に示す必要があると思われる。

具体的には、専門分野の個別性の影響の強い専門教育と比べ、比較的大学間で共通の機能と諸課題を抱え、社会や時代の変化への対応の結果新たな教育プログラムを付加されやすい共通教育・教養教育の在り方に注目し、そこから浮かび上がる諸課題を写し鏡にしながら、専門教育を含む学士課程教育の質保証の問題点を明らかにしたい。

公開シンポジウム 5月29日(日) 13:40-16:20
名城ホール(N101)

大学経営の苦悩—対立から協働へ—

司会 池田 輝政(名城大学)

1. 問題提起

潮木 守一(名古屋大学名誉教授)

2. 大学研究の視点から

加藤 毅(筑波大学)

3. 公立・私立大学の視点から

大坪 檀(静岡産業大学)

4. 国立大学の視点から

豊田 長康(国立大学財務・経営センター)

18歳人口の減少や補助金・交付金の削減などにより、大学経営は苦境に陥っていると言われて
いる。しかし、大学の財務破綻が多く発生しているわけではない。財務の安定は大学経営の重要
事項ではあるが、経営問題を財務問題だけに限定して考えるのは適切ではない。経営問題を財務
問題に限定すると、教育・研究のコストを節減して財務を安定させるというように、教育・研究
と経営が対立的にとらえられることになりがちである。

大学経営とは、教育・研究・社会サービスという大学のミッションを果たすために、ヒト・モ
ノ・カネ・情報といった資源を適切に組み合わせて活かすことであるはずだ。そうであるならば、
大学の教員・職員・経営者が知恵を出し合い、協働の力を発揮できるようにすることが大切であ
る。

このシンポジウムは、そのような知恵を出し合う場として企画した。まず、大学経営は現在、
何に苦しんでいるのか、何が問題なのかを明らかにする。提起された問題に対して、大学イノベ
ーション論、知識労働者論、トップマネジメント論などの視点から検討する。フロアからの発言
も交えて、大学経営における協働への道筋を探りたい。

日本高等教育学会第14回大会プログラム

発行日：2011年4月20日

発行者：日本高等教育学会第14回大会準備委員会

大会準備委員会

委員長

池田 輝政 (名城大学)

委員

阿曾沼明裕 (名古屋大学)

伊藤 彰浩 (名古屋大学)

犬飼 齊 (名城大学)

浦田 広朗 (名城大学)

熊谷 正信 (愛知産業大学)

黒田光太郎 (名城大学)

越立 政彦 (名城大学)

小出 龍郎 (愛知学院大学)

神保 啓子 (名城大学)

竹市 良成 (愛知学院大学)

楯 一也 (名城大学)

中島 英博 (名城大学)

夏目 達也 (名古屋大学)

難波 輝吉 (名城大学)

安田淳一郎 (名城大学)

日本高等教育学会 第14回大会準備委員会

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

名城大学 大学・学校づくり研究科 浦田研究室内

E-mail: jaher2011@emspd.meijo-u.ac.jp

URL: <http://emspd.meijo-u.ac.jp/jaher2011/>

Tel: 052-838-2548

どう考える？ニッポンの教育問題最新刊！

「習慣病」になったニッポンの大学

— 18歳主義・卒業主義・親負担主義からの解放 —

矢野眞和著 ● 四六判・ソフトカバー・約280頁 ● 定価1,575円

若者ばかりの新入生、卒業目的の学生生活、高い授業料の親負担…。ニッポンの大学が患う3つの習慣病を治せば、大学は必ず生まれ変わる！すべての人にやさしい大学にするための方法を探る画期的1冊！

〈主要目次〉

日本の大学は、経済とともに動いています／大学全入時代に突入する！／18歳進学率と生涯学習率に注目しよう！／日本的大衆大学の誕生／18歳主義・卒業主義・親負担主義／習慣病になった日本の大学／大学の現在―改革の終わりのほじまり／大学をみんなに解放しよう！／ブックガイド／など

※タイトルは変更になる場合がございます



教育の「いま」を読み解き、「未来」につなぐ知のアンソロジー！

リーディングス 日本の教育と社会⑫ 高等教育

塚原修一編著 ● A5判・上製・約380頁 ● 定価3,675円

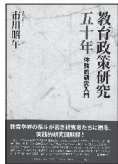
近年、研究の関心が高まりつつある「高等教育」について、その市場化や学力評価システムの日米比較、大学と地域・企業の産学連携などに関する論考23点を収載！

半世紀を超える著者の研究を集大成した大著！

教育政策研究五十年 — 体験的研究入門 —

市川昭午著 ● A5判・上製・約520頁 ● 定価3,990円

長年にわたり教育研究に携わってきた著者による、研究者を志す人々に向けた実践的研究回顧録！これまでの研究成果・論争などを纏めた第一部と若き日に学んだ学校、勤めた職場とそこで出会った人々との交流などを綴った第二部で構成。



日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL03-3947-9387 FAX03-3947-1774
<http://www.nihontoshu.co.jp>

[価格税込]

■呈内容見本

日本の大学改革・展開と展望

大学自らの総合力―理念とFD
寺崎昌男著 四六・上製・二一〇〇円

大学改革その先を読む
寺崎昌男著 四六・並製・一三六五円

転換期日本の大学改革―アメリカ
江原武一著 A5・上製・三三六〇円

国立大学法人の形成
大崎仁著 A5・上製・予三三六〇円

国立大学・法人化の行方―自立と格差
天野郁夫著 A5・上製・三七八〇円

航行をはじめた専門職大学院
吉田文・橋本敏市著 A5・上製・二七三〇円

大学の経営・財政改革
篠田道夫著 A5・上製・三三七〇円

大学戦略経営論
丸山文裕著 A5・上製・三三六〇円

私立大学の経営と拡大・再編
―一九八〇年代後半以降の動態
両角亜希子著 A5・上製・四四一〇円

私立大学マネジメント
社団法人私立大学連盟編 A5・上製・四九三五円

教員養成・継続教育の改革
―未来のための教師をどう育てるか
渡邊満/K・ノイマン編著 A5・上製・三九九〇円

教員養成学の誕生―弘前大学教育
―学部の挑戦
遠藤孝夫・福島裕敏編著 A5・上製・三三六〇円

大学教育の具体的刷新のために

大学教育のネットワークを創る―明日へ
京都大学高等教育研究開発推進センター編
編集代表松下佳代 A5・上製・三三六〇円

初年次教育でなぜ学生が成長するのか
―全国大学調査からみえてきたこと
河合敦編 A5・並製・二九四〇円

日本のティーチング・アシスタント制度
―大学教育の改善と人的資源の活用
北野秋男編著 A5・上製・二九四〇円

大学における書く力考える力
―認知心理学の知見をもとに
井下千以子著 A5・上製・三三六〇円

ポトフオリオが日本の大学を変える
土持ゲリー法一著 A5・並製・二五二〇円

ティーチング・ポトフオリオ―授業改善
土持ゲリー法一著 A5・並製・二一〇〇円

ラーニング・ポトフオリオ―学習改善
土持ゲリー法一著 A5・並製・二六二五円

作文の教育―へ教養教育の批判 シリーズ1
宇佐美寛著 A5・並製・二一〇〇円

問答形式で考えさせる シリーズ2
大田邦郎著 A5・並製・二一〇〇円

大学授業入門(2刷)
宇佐美寛著 四六・並製・一六八〇円

日本の留学生政策・受入れと派遣
―人材養成・友好促進・経済効果の視点から
佐藤由利子著 A5・上製・三三七〇円

近代日本海外留学の目的変容
―文部省留学生の派遣実態について
辻直人著 A5・上製・五〇四〇円

高等教育の責務・質・アカウンタビリティ

大学の責務
D・ケネディ著 立川明・坂本辰朗・井上比呂子訳 A5・上製・三九九〇円

高等教育質保証の国際比較
羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘編著 A5・上製・三七八〇円

戦後日本産業界の大学教育要求
―経済団体の教育言説と現代の教養論
飯吉弘子著 A5・上製・五六七〇円

アジアの高等教育改革・現状と展望
韓国大学改革のダイナミズム
―ワールドクラス(WCU)への挑戦
馬越徹著 四六・上製・二八三五円

韓国の才能教育制度―その構造
石川裕之著 A5・上製・三九九〇円

中国教育の文化的基盤
顧明遠著 大塚豊監訳 A5・並製・三〇四五円

中国大学入試研究―変貌する国家
大塚豊著 A5・上製・三七八〇円

中国高等教育独学試験制度の展開
南部広孝著 A5・上製・三三六〇円

中国の民営高等教育機関―社会ニーズ
鮑威著 A5・上製・四八三〇円

中国高等教育の拡大と教育機会の変容
王傑著 A5・上製・四〇九五円

高等教育と奨学金政策
―高等教育機会と人材育成
小林雅之編著 A5・上製・予三九九〇円

授業料と奨学金の8カ国比較(仮題)
―アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策
大塚典子著 A5・上製・三九九〇円



名城育ちの達人を社会に送り出す

名城大学

MEIJO UNIVERSITY



法学部 / 経営学部 / 経済学部 / 人間学部 / 都市情報学部 / 理工学部 / 農学部 / 薬学部
法学研究科 / 経営学研究科 / 経済学研究科 / 人間学研究科 / 都市情報学研究科 / 理工学研究科 / 農学研究科 / 薬学研究科 / 総合学術研究科 / 法務研究科 / 大学・学校づくり研究科

<http://www.meijo-u.ac.jp/>